

演劇的手法を取り入れた コミュニケーションワークショップ

演劇的な手法を用いたワークショップといっても、単に劇の練習をするわけではありません。

演劇的な手法を取り入れながらコミュニケーションについて学ぶ内容となっています。



演劇的な手法を取り入れたワークショップを通して、自主性／表現力／発想力／感受性／社会性／まとめる力／チームワーク／協調性など、子ども達に自ら考えてコミュニケーションしようとする能力を養います。

- | | | |
|---|-------------|--|
| 1 | 日時 | 平成31年3月6日(水) |
| | ①ワークショップ | 13:20~15:10 |
| | ②教職員と講師の座談会 | 15:45~16:20 |
| 2 | 場所 | 浪江町立なみえ創成小中学校 多目的室 |
| 3 | 講師 | NPO法人PAVLIC 演出家 わたなべなおこ
俳優 村井まどか
劇作家 舘 そらみ
インストラクショナルデザイン研究所 大野智美 |
| 4 | 参加者 | 小中学生8名、教職員14名、大学生4名 |

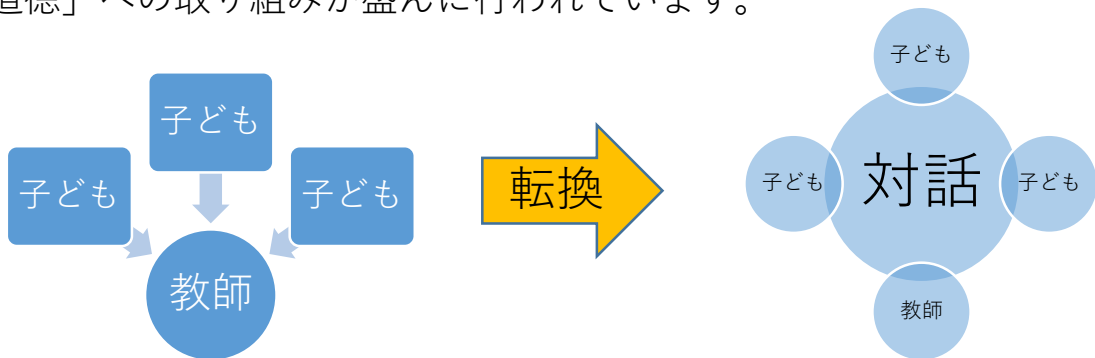
[主なプログラム]

- ・じゃんけんゲーム
- ・なかま探しゲーム
- ・あやつりゲーム
- ・グループを作ってジェスチャーゲーム
- ・本日の振り返り

【なみえ創成が目指す、「主体的・対話的で深い学び」の実現】

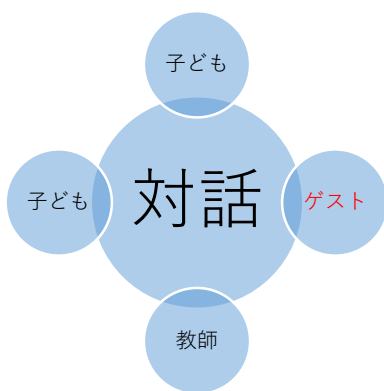
子どもたちに自ら考えてコミュニケーションしようとする能力を身につけさせることは、誰かと対話したり理解しあったりして協働で物事を成し遂げていく人材（グローバルな人材）を育成するうえで大切な視点のひとつとなっています。

また、「特別の教科 道徳」が小学校につづき中学校でも平成31年4月から全面実施されます。全国の学校では、子どもの問いを大切にし、子どもと教師が円座になって、対話を通して「答えがひとつではない、悩みがある問い」を掘り下げながら互いの考えを深めていく「考え、議論する道徳」への取り組みが盛んに行われています。



文部科学省が求める授業の姿で大切なのは、児童生徒が自ら問いをだし、児童生徒同士で対話しながら探究する学びのプロセスです。

「なみえ創成では少人数だから、実現できないのでは？」と思う方もいると思いますが、「児童生徒同士」を「世代を超えた多様な人々」ととらえることによって実現することができます。



ゲ 上級生・下級生（小中連携）

ス 地域の大人の方々、他の教職員（コミュニティ・スクール）

ト 他校の児童生徒、高校生・大学生（交流、ICT活用）

《学習スタイルの基盤》

「何を話しても否定されない。周りの人がしっかり話を聞いてくれる。」という知的な安心感（セーフティ）の構築。

